

Monthly Report

Vol.36 広報室

平成21年5月22日発行

目次:

朴沢学園創立130年	1
鈴木のぞみさん	2
フィンランド留学生	3
国際貢献事業JICA 体育祭開催	4
現代GPガイダンス	5
ノーマライゼーションセミナー	6
ジュニア教室開講	7
学生の活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
土生佐多 200
伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

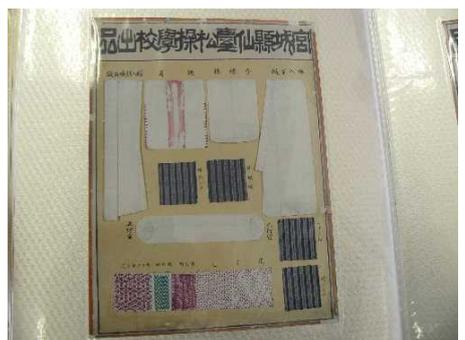
学校法人 朴沢学園130周年(1879 - 2009 ~)

本学の母体、学校法人朴沢学園が今年で130周年を迎えます。宮城県下で、本学園が最も歴史の長い私立学校です。

明治12年に朴沢 三代治初代校長が仙台本荒町(現在の一番町)に松操私塾を始め、革新的な裁縫教授用掛図による一斉授業を行い、子弟を集めて教育にあたり朴沢学園の基礎を築きました。明治17年には教授方法を明確にした「裁縫教授書」が我が国初の文部省小学校裁縫教科書として採用され、同じく明治17年には、「裁縫教授用掛図」を国内への出品に留まらず米国博覧会へも出品しています。

朴沢流裁縫技術はその名を広め、朴沢三代治二代校長時代には全国的に松操学校の存在が知られることとなり、北は北海道、南は熊本などから教えを求め、当時すでに卒業生は5千名を超え、郷里へ帰り、朴沢流裁縫技術を普及させました。

現在、その貴重な掛図や裁縫教授書は、青葉区川平の法人本部で大事に保管されています。



図書館に、1979年に発行された記念誌「百年のあゆみ」があります。学園の歴史にご興味のある方は是非ご一読下さい。

OGハワイ州立大学スクーリング第1回生(2003.12月実施)の 鈴木のぞみさん(平成17年度卒)ハワイ州立大学大学院修了

～アスレティックトレーナーを目指し、単身ハワイでゼロからのスタート～



←一番左には、のぞみさんと
同じ目標を持ってハワイに
渡った鈴木理恵さんの姿も

ハワイ州立大学スクーリングをきっかけに本格的に同大学で学びたいと思った鈴木のぞみさん(明成高校 仙台大学体育学科 H17年度卒)。本学を卒業後、アスレティックトレーナーになるべく単身ハワイに渡り、語学学校を経てハワイ州立大学大学院(キネシオロジー - アドバンスド レジャー グラデュエーション プログラム)に入学していた鈴木のぞみさんが5月17日に同大学院を無事修了しました。

6月にはいよいよアスレティックトレーナーの資格試験にチャレンジするそうで、本学初の同資格者誕生が楽しみです。

後に続いた鈴木理恵さん(H20年度卒)も同大学大学院を目指し、現在ハワイの語学学校で頑張っています。のぞみさんのブログに写真が載っていたので、ご本人の快諾を得、苦労が綴られた卒業式前日のブログと共に紹介します。

尚、ブログに添付されていた卒業式の動画は学食等で放映予定です。

ありがとう

鈴木のぞみさんブログ <http://blog.goo.ne.jp/>

5月16日更新

3年前の私は、今の私になりたかった。でも、想像できなかった。

先輩の卒業式を見て、「私もこうになりたい」そう強く思った。

英語が話せなかった。日常会話すら聞こえなかった。大学生の教科書なんて、読めもしなかった。今みたいにペーパーなんて書けもしなかった。

~~~~ 中略 ~~~~

アスレティックトレーニングが学びたくて仕方がなかった。でも、英語がわからなかった。

大学院に入れるかすら、わからなかった。

トッフルが上げられなかった。

プログラムに入った。

全て吸収したいと思った。でも、クラスに付いてゆくのもやっとで、理解できないことがたくさんあった。

クラスメートと普通に話せるようになりたかった。でも、日常会話にすら付いてゆけない事がしばしばだった。だから、毎日みんなの会話を聞いていた。

選手のいっている事を100%理解することができなかった。正確な怪我の評価ができなかった。

アメリカ人の前で、プレゼンテーションをしなければならなかった。理解してもらえないかいつも不安だった。

ぐちゃぐちゃな英語を使ってしまうことが、しょっちゅうだった。呆られる事もあった。相手のプラスになれない自分が、情けなかった。

自分は家族、友人達に助けられて、成り立っているのだと分かった。

彼らの理解、協力無しには、ここまで来られなかった。彼らが私を今日まで引っ張ってきてくれた。

友人達。語学学校、ELI、アスレティックトレーニングの先輩たち、クラスメートたち、トレーナールームのスタッフ、今まで関わってきてくれた全ての先生たちのこと。

ということで、明日は卒業式です。

3年越しの想いが、現実になる。

本当に、今までありがとう。今、最高に嬉しいです。

夢が叶うって、こういうことだったんだ。

本当に、ありがとう。

## フィンランドからの留学生 滝口町長を表敬訪問

5月8日(金)からフィンランド・カヤーニ応用科学大学から3名の留学生(左からアマリ・ハル、サウ・トゥルネ、エロ・ロシネ)が本学で学んでいます。

本学とカヤーニ応用科学大学は平成18年に国際交流協定を締結し、短期留学を通して互いに学生交流を図っており、今年が第3回目のプログラムです。

滞在は3週間で、講義に参加するほか、柴田町内の小・中学校訪問、ホームステイ、農業体験、茶道などを通して日本文化に触れる予定です。11日には柴田町 滝口町長を表敬訪問しました。

滝口町長から「日本の伝統文化、郷土料理、町の人たちの生活を学んで帰っていただきたい。フィンランドのよさを大学の学生に伝え、交流が深まるように関係を築いてください」との言葉を頂きました。同日に行なわれたウェルカムパーティーには台東大学(台湾)から1年間、科目等履修生として留学中の簡介文(カン カイブン)氏も招き、教職員・学生が参加して交流を深めました。



ウェルカムパーティー / 簡介文氏(台湾)



船迫中学校 / 給食



太田教授宅にて / 着物



実技 / 柔道



実技 / 剣道



実技 / ダンス

## 仙台国際ハーフマラソン大会国際姉妹都市交流会

～ ベラルーシ共和国ミンスク市選手団団長が本学を視察 ～



ミンスク市 選手団(向かって左がミハエル団長)

5月10日に、19th 仙台国際ハーフマラソンが開催され、大会後には国際姉妹都市交流会が開催されました。交流会には、昨年に引き続き今年も招待を受け、学長はじめ本学から7名が参加しました。昨年この交流を契機として、新体操部コーチのマカロワ・マリヤさんの本学招聘が実現しています。

また、5月8日にはミンスク市選手団団長で、ミンスク市体育・スポーツ観光部長でもあるミハエル・B・ユスパ氏が仙台市の職員とともに本学

を訪れ、学長や新体操部の大山部長、丹羽監督、マカロワ・マリヤさんと懇談しました。その後、第3体育館や新体操の指導が行われている第4体育館、陸上競技場などを熱心に視察されました。



本学からも学長をはじめ、7名で交流会へ参加



長春市 選手団(招待選手最高記録 女子12位)



本学トレーニングセンター

## 仙台大学国際貢献事業 ～ JICA『世界の笑顔のために』プロジェクト

柳講師の呼びかけで2年前に始まったJICAの主催する「世界の笑顔のために」への本学からの物品提供は、これまでにバレーボール・野球グローブ・シューズなどが世界約15ヶ国に送られ、子ども達の笑顔の源ともなり喜ばれています。

今年度からはボランティアセンター主管となり、多くの学生が関わることで更に大きな取組みになろうとしています。今回は今まで以上に近隣のコンビニエンスストアや商店にポスターを掲示させていただいています。

今回の物品回収期間は5月11日～22日(17時)まで(管理課)です。

### 活動メンバー

- 大道有起さん(大学院1年)
- 齋藤まりさん(運動栄養学科4年)
- 小寺恭平さん(体育学科4年)
- 小沢まりさん(体育学科3年)
- 横山宗平さん(健康福祉学科2年)
- 佐々木里花さん(スポーツ情報メディア学科1年)
- 槻山朋恵さん(スポーツ情報メディア学科1年)

### 横山宗平さん(健康福祉学科2年)



コ・アクトやユニティー、現代GP、学校支援ボランティアなど色々な活動をしています。日本を超えて世界と関われる機会はありません。この取組みを通して、少しでも世界の方と携われる事が自分にとって大きく貴重な体験です。

再利用可能なボールなどのスポーツ用品が、いなくなったからといって捨てられるのはもったいなく、他の国で活用してもらえればと思うので是非、皆様の物品提供をお願いします。



以前のプログラムに対する御礼状の一つ

## 学友会企画で体育祭開催

5月16日(土)に学友会主催で体育祭が開催されました。体育祭は1年生の交流を促進する目的で開催され、1年生と参加希望したB.B.バレー同好会を合わせて111名が参加しました。

このイベントは「体育大学なのに体育祭がない」との学友会の提案から初めて開催されたもので、クラス毎に分かれて長縄跳びとドッチビーの2種目で競い合いました。大会終了後は学生食堂を会場に交流会も開催され、ビンゴ大会などで楽しい時間をすごしていました。

今大会にはキーナート副学長(特命事項担当)から楽天野球団のユニフォームを、佐藤(宏)副学長からベガルタ仙台フォーム観戦チケットなどを大会賞品としてご提供頂きました。また、シダックスからも楽天ホームゲーム観戦チケットの提供をいただきました。

入学してから約1ヵ月半。1年生同士がクラスの枠を超えてスポーツを通じ交流を深め、仲間との絆を強くできた大変有意義な企画でありました。

- 優勝 体育学科C-1
- 第2位 体育学科混合チーム
- 第3位 運動栄養学科B-1
- 学長賞 健康福祉学科C混合
- 学生部長賞 B.B.バレーボール同好会



## 現代GP「地域密着型の健康づくり支援システムの構築」ガイダンス



4月27日(火)、5月11日(月)にB203教室において現代GPの健康づくり運動サポーター養成ガイダンスが開催され、2回合わせて約100名の学生が参加しました。

はじめに橋本学科長が「町の健康に貢献して社会に出て役立つ人材になってもらいたい。是非、上級まで修了し卒業して下さい。」と挨拶の後、小池教授より養成プログラムの概要が説明されました。

3年目の今年は、健康福祉学科1年生の専門基礎科目のカリキュラムに「健康づくり運動演習」として含まれ、また、上級コースがスタートします。

健康福祉学科1年生は今年から学科で習得可能となり、それ以外の学生がガイダンスに参加し、18日から養成講座もスタートしています。健康福祉学科以外の学生も多数参加しており、この取り組みへの高い関心度をうかがい知る事ができました。

「地域密着型の健康づくり支援システムの構築」は、平成19年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに私立体育大学として初めて採択されました。体育系大学の特徴を活かして地域の健康事業の指導者不足の解消という要請に応えながら、時代が求める健康福祉分野での専門知識やホスピタリティー、ユーモア、明るさを備え、楽しい運動指導のできる実践的な能力を身につけた人材養成を目指しています。



専用ホームページ

<http://www.scn-gp.jp/kensup/>

## 学都仙台コンソーシアム広報サポートスタッフ決定

～ 学生の活躍の場が広がる ～ つながる ～



本学が加盟している「学都仙台コンソーシアム」で、この度学生による「広報サポートスタッフ」の募集があり、学内で検討した結果、スポーツ情報マスメディア学科2年生2名の学生が決定しましたのでご紹介致します。(任期：平成21年5月～22年2月予定)

これは学都仙台コンソーシアム広報部会が、広報活動全般に対して学生の視点を取り入れるために平成20年度から学生スタッフをつのっているもので、本学では去年に引き続き、2回目の選出となります。

1人は「スポーツ情報戦略コース」で学ぶ高橋悠(ゆう)(二女高時代ソフトボール部)さんで

「自分にとって「コンソーシアム」が未知なる分野だったことに興味を持ちました。HPで調べてみたところ学生のページもあり、体育大学としてだけではなく幅広く活躍している多くの仙台大学の学生達を自分の手で紹介したいと思ったのが志望動機です。将来的には英語の勉強や教員への道も含め経験したいことがたくさんあるので、他大学の学生と交流しつつ見聞を広めたいと思います。」とのことでした。

もう1人はスポーツマスメディアコースで学ぶ高橋花奈(富谷高校時代ハンドボール部)さんで「現在、フリーペーパー作りに着手しており、完成した後、それを他大学に置いていただき、逆に他大学のフリーペーパーを本学に置くような試みで、学生同士の交流が図れれば良いのではと考えています。今回はそのための勉強の機会と考え、応募しました。卒業後は広報関係、マネジメント他、今出来ることに全力で挑戦した中から進路を決めたいと思います。」と話していました。

他大学に比べ本学の最大の長所として2人共「先生方との距離が近く、少人数制で指導して下さること」と口を揃え、日々積極的に充実した学生生活を送る姿が感じられました。

学都仙台コンソーシアム広報部会によりますと、6月中に第1回目の広報スタッフ会議が予定されているそうで、ダブル高橋さんの活躍が楽しみです。

## 第2回ノーマライゼーションセミナー開催

～デンマークの教育のいいところ 日本の教育のいいところ～



デンマークと日本の教育におけるノーマライゼーションの考え方について、北欧デンマークから千葉忠夫氏(N.E.バンク・ミケルセン記念財団理事長)をお招きし、特別講義『デンマークの教育のいいところ 日本の教育のいいところ』を開催しました。千葉氏はデンマークを拠点に社会福祉活動を行っており、2006年ニュースウィーク日本版特集「世界が尊敬する日本人100人」にも選ばれている方です。

会場のB103教室には、学生と一般の参加者約50名が出席し、「世界一 住み良い国」と言われるデンマークと日本の違いを、特に教育面から、デンマークの授業形態である対話型でお話していただきました。

「デンマークの学校では授業内容を理解したかどうかのテストはあるが、日本のような中学入試や高校入試のような試験はない。また、通知表もないが、教員は一人ひとりの子供としっかりと向き合いその子供の得意分野を伸ばすよう教育し、年に2回理解度や可能性を子供と親と教員が一緒に話し合う三者面談で確認する。これは人に優劣

をつけないことを子供のうちから教育しているもので、ノーマライゼーションの理念の下に、誰でも平等に扱うことを実践する教育である。このような教育があり、高齢者も障害者も平等に暮らせる社会が構築されており、「世界一住みよい国」と言われる所以は教育にある。一方、日本は、子供を受験競争させ、社会の中で優秀な人材を育成することで経済大国となった。しかし、経済大国とは社会的立場の弱い人が安心して暮らせない社会でもある。日本人もデンマークのような社会福祉社会の実現を望む声が多いが、ノーマライゼーションの理念の基づいた誰でも平等に扱うことを実践する教育を取り入れてこなかったからではないか」と話されました。

千葉氏の講演後には、子どもたちの命と健康を願う『みやぎ夢燈花in仙台大学』が実施されました。『夢燈花』とは2001年に大阪府池田市で起きた校内児童殺傷事件の鎮魂行事「いけだ夢燈花」がはじまりで、本学非常勤講師の石川健先生(元宮城県立光明支援学校 校長)が「みやぎ夢燈花」の会長を務めて活動されています。現在は光明支援学校と南中山住民の他に、聖和学園女子短期大学や南中山小学校の学生・児童も参加して活動が広がっています。今回、仙台大学で活動を行なう事で更なる広がりが期待されます。



「ノーマライゼーション」とは、デンマークで俗に1959年法と言われる知的障害者支援に対する説明文の中で、次のように謳ってある。

知的障害のある人の生活条件を知的障害のない人の生活条件に可能な限り近づけること。

それは、もともと知的障害者のためにあったが、今では広く、子どもから高齢者にわたり、不利な条件を伴うたちばの人々に適用されるようになった社会福祉の基礎的理念。

## 献血車「いずみ号」による構内 献血事業



日本赤十字社による献血事業の一環として、献血車「いずみ号」が4月30日(木)に訪問しました。今年度、第1回目の構内での献血活動で、教職員、学生合わせて79名が受付し、うち46名が採血の協力を行ないました。

当日は併せて「骨髄バンク登録会」も開催され、骨髄バンクについての理解を深めてもらえたようです。

## 体育施設管理士資格 認定証交付式



4月27日(月)大会議室において「体育施設管理士」認定試験(資格)合格者に対して朴澤学長より認定書が授与されました。

「体育施設管理士」の資格は、財団法人日本体育施設協会が主催し、体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を習得することによって、体育施設管理者の資質向上とともに、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的としています。

協会施設内(東京都)での受験だけだったもの

が、体育系大学で学生が受講しやすい便宜を図れないかを協会に陳情した結果、2006年度に講習会を行ない35名が資格を取得しました。

2007年度(昨年)から仙台大学と順天堂大学(体育系大学)に対して指定のカリキュラム受講生に対して「体育施設管理士」養成講習会の免除が適用になり、大学内での受験が可能となりました。2007年度は50名が合格し、今年は昨年を上回る61名が受験、全員が認定を受けました。

認定証が交付された後、朴澤学長より「資格には教員免許などの国家資格と、中央の大きな団体が出す資格とがあり、『体育施設管理士』(認定)資格もその一つ。これらは在学中に取得できるものは少なく、これに限らず、他分野の資格への挑戦も訓練・経験の機会としてチャレンジしていただきたい。保健体育科教諭を志している皆さんが、この資格を取得したことは、教育にも学校の管理運営にも役立つ場があり、教員以外の仕事についても役立つ場があります。この資格を活用していただきたい。」との激励がありました。

## 平成21年度 ジュニア新体操教室が開講



4月22日(水)に平成21年度ジュニア新体操教室が開講しました。ジュニア新体操教室は平成6年にスタートしてから好評で、今年も90名超の子供たちが通います。

開講式には新体操競技部 部長の大山准教授、監督の丹羽講師、外国人指導者のマカロワ氏、新体操部の学生9名が出席。受講する3歳から12歳までの児童と保護者合わせて約100名の参加がありました。

開講式後には第1回目の教室を開催し、丹羽講師の声がけで、リズム感を養う運動や、柔軟体操が行われました。華やかな衣装をまとった子供たちが愛らしい表情を見せて取り組んでいました。

新体操教室は毎週水曜日開かれ、11月に開催する演技発表会に向けて、演技力はもちろん他のスポーツでも求められる柔軟性や仲間との協調性も指導していきます。



## 柔道グランプリ チュニジア国際大会で田中美衣さんが2位



5月9日に行われた柔道グランプリ チュニジア大会(女子63kg級)に出場した田中美衣さん(体育学科4年)は、準決勝戦までオール一本で勝ち進み、決勝戦ではアテネオリンピック3位で今年の欧州王者のU・ゾルニール(スロベニア)に挑みました。

開始から相手の攻撃に防戦一方となった田中さんは「指導」を2つ取られ、さらに肩車で「技あり」を奪われて劣勢になりました。中盤、寝技の攻防戦から一度は田中さんがゾルニールを抑え込むも、力と経験に優る相手に10秒ほどではずされ、最後は再度の肩車で一本負けを喫しました。

今回の2位で、田中さんは国際大会では2つの優勝を含む4大会連続の表彰台です。決勝戦は完敗でしたが、8月に行われる世界選手権大会(オランダ・ロッテルダム)の優勝候補でもあるゾルニールと対戦できたことは有意義であったに違いありません。大会で得た課題を克服し、7月のユニバーシアード(セルビア)では金メダル獲得を目指します。

## 陸上競技の2009日本グランプリシリーズ

～延味由起さん(体育学科4年)がやり投げで4位に～

4月26日(日)に兵庫県で行なわれた陸上の日本グランプリ競技大会において、延味由起さん(体育学科4年)が50m71の成績で4位になりました。学生の中ではトップの記録です。

昨年、延味さんは大躍進し、自身の記録を大幅に更新するとともに、日本学生陸上競技選手権大会を優勝、インカレでも2位となりました。

学生最後の今年、日本学生陸上(6/12-14)2連覇とインカレ(9/4-6)制覇へ大きな期待がかかります。



## 第63回全日本体操競技選手大会

～亀山耕平さん(体育学科3年)があん馬で1位の得点～



この大会は「世界選手権」、「JAPAN CUP」、「ユニバーシアード」の代表選考を兼ねており、亀山さんのあん馬の成績は世界選手権代表に近づく素晴らしい得点です。6月に開催される世界選手権最終選考会の成績次第では、本学体操競技部初となる在学生の世界選手権出場の可能性も見えてきました。

今大会には学生9名が出場し、個人総合では亀山耕平(体育学科3年)の22位が本学としては最高成績でした。OBでは、関口栄一さん(所属:KONAMI)が2日間の成績合計で4位となり、JAPAN CUP代表を掴み取りました。

4月25、26日に代々木第一体育館で行われた「第63回全日本体操競技選手大会」において、亀山耕平さん(体育学科3年)があん馬で1位の得点を出しました。(1日目/1位(得点:15.450)、2日目/2位(得点:15.450))

体操部は5月15-17日に栃木県体育館を会場にして第43回東日本学生体操競技選手権大会でも男女共に団体戦4位。種目別では亀山さんが得意のあん馬を制しました。